

2025年度

宮前柳津幹線・7-1

福山市松永町四丁目地内

道路函渠補修工事 実施設計書

工 事 概 要	当初設計		
	工事延長	L=55. 2m	
	函渠幅	W=2. 1m	
	ひびわれ補修工	L=17m	
	断面修復工	A=38m2	
	表面含浸工	A=115m2	
	目地充填工	L=12m	

特記仕様書

第1章 総則

第1節 適用

- ・本特記仕様書は、道路函渠補修工事（宮前柳津幹線・7-1）に適用する。
- ・本特記仕様書に記載のない事項については、次によるものとする。
- ・令和6年8月 広島県 土木工事共通仕様書、「設計図書（別冊図面、仕様書）」、「福山市建設工事執行規則」、「福山市工事検査技術基準」
- ・その他関連規格類
- ・小黑板情報電子化を実施しない工事写真について、監督員の承諾を得る必要はないものとする。

第2節 工程表の提出について

- ・契約締結後14日以内に設計図書に基づいて、工程表を作成し、発注者に提出すること。工期の変更契約についても同様とする。

第3節 地元への周知

- ・受注者は、監督員と協議し、地先住民、町内会長、土木常設員に工事着手及び工事完了の報告を行うこと。また、工事着手に先立ち地先住民及び貸借人には具体的な施工内容、方法、時期等の説明を行い、承諾を得ること。
- ・受注者は、工事着手の際に、あらかじめ沿線地権者に施工内容等についての説明を行い、承諾を得ること。

第4節 工事に着手すべき期日について

- ・受注者は、工事開始日以降30日以内に工事着手しなければならない。

第5節 法定外労災保険の付保について

- ・本工事は、法定外の労災保険契約の保険料を見込んでいる。

第6節 再生資源利用計画の現場掲示

受注者は、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するよう努めるものとする。

第2章 施工条件

第1節 検査期間

- ・本工事の工期は、工事検査期間として、14日間を見込んでいる。

第2節 交通誘導警備員

- 1 片側交互通行及び通行止め等の交通制限を行う場合は、関係官公署の許可条件を遵守し、関係機関との協議を十分に行うこと。また、地域の地元関係者等周辺を利用する市民への周知徹底を図り、安全かつ円滑な交通を確保して事故発生の無いように努めること。
- 2 作業現場、作業用地内の整理整頓に留意して必要な安全施設の設置等を行い、関係者以外の立入りを禁止して危険防止に努めること。
- 3 本工事における交通誘導員は、交通誘導警備員Bを見込んでいる。尚、交通誘導警備員の実施伝票は原本を提出すること。
- 4 本工事において交通誘導警備員の積上げ人数は、交通誘導警備員の対象となる施工量に対し作業日当たり標準作業量から必要人数を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き、施工実績等による交通誘導員の積上げ人数の増員に対する変更は行わない。
- 5 受注者は、工事着手に先立ち、交通誘導警備員の配置計画（配置日数及び配置場所）を作成し、監督員と協議すること。

第3節 任意仮設

- ・本工事に伴う以下の内容の仮設工は、積算用参考図に見込んでいる。なお、積算用参考図は任意仮設の積算内容を示したものであり、工事目的物を完成させるための一切の手段については、受注者の責任において定めるものとする。
- ・内容：土のう積、水替工

第4節 建設副産物について

(1) 工事受注者は、工事着手前に、次の書類を本工事の監督職員に提出すること。なお、建設発生土については、処分先の現地確認写真を提出すること。

1 建設廃棄物処理計画書

- ・廃棄物処理業者（収集及び運搬）の許可証の写し（許可車両の自動車登録番号一覧及び自動車検査証の写しを含む）
- ・廃棄物処理業者（中間処理・最終処分）の許可証の写し（再生資源化施設にあっては、それを示す書類を含む）
- ・運搬ルート、処分場の位置、事業の範囲、処理能力及び処理方法を明示したもの
- ・各処分場の現地確認写真
- ・建設工事の受注者と処理業者（収集、運搬、中間処理・最終処分・再資源化施設）との二者の業務委託契約書の写し

2 再生資源利用計画書

3 再生資源利用促進計画書

(2) 工事受注者は、「再生資源利用計画書」、「再生資源利用促進計画書」及び「建設廃棄物処理計画書」に従い建設廃棄物及び特定建設資材廃棄物が適正に処理されたことを確認し、工事完成時に次の書類を監督職員に提出すること。なお、建設発生土については、処分先への搬入状況の写真を添付すること。

1 再生資源利用実施書

2 再生資源利用促進実施書

3 建設廃棄物処理実施書

- ・マニフェスト（産業廃棄物管理票）の写し及び再生資源化に係るものについては受入伝票の写し（マニフェストは原則として環境省が示す全国統一のマニフェストを使用する。）
- ・収集及び運搬の写真並びに中間処理場及び最終処分場（直接最終処分の場合のみ）への搬入状況の写真

第5節 建設発生土（搬出）（建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積））

・当該工事により発生する建設発生土は、公の関与する埋立地、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）のいずれかに搬出するものとする。また、搬出先として、運搬費と受入費（平日の受入費用）の合計が最も経済的になる建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き残土処分に要する費用（単価）は変更しない。なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）への搬出が困難となった場合は、監督員と受注者が協議するものとする。

・搬出先においては、処分状況が確認できるよう、写真撮影を行うとともに、数量等が確認できるように計量伝票等を監督員に提出すること。

・実施伝票は原本を提出すること。

第6節 特定建設資材廃棄物（アスファルト塊、コンクリート塊等）

・建設リサイクル法対象工事（請負代金額500万円以上）の場合、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」を遵守し適正に処理すること。また、法第12条第2項に基づき、法第10条第1号から第5号までに掲げる事項について下請負人に告知する場合は、告知書の写しを監督員に提出すること。

・特定建設資材廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という）を遵守し、適正に処理しなければならない。

・特定建設資材廃棄物は、広島県（環境局）及び保健所設置政令市（広島市、呉市、福山市）が、廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設へ搬出し再資源化しなければならない。

・再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は、広島県（環境局）及び保健所設置政令市（広島市、呉市、福山市）が廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設のうち受入条件が合うものの中から、運搬費と受入費の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。従って、正当な理由がある場合を除き再資源化に要する費用（単価）は変更しない。なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、施設への受入が困難な場合は監督員と受注者が協議するものとする。

・搬出先においては、処分状況が確認できるよう、写真撮影を行うとともに、数量等が確認できるように計量伝票等を監督員に提出すること。

・マニフェスト（産業廃棄物管理票）の写し及び再生資源化に係るものについては受入伝票の写し（マニフェストは原則として環境省が示す全国統一のマニフェストを使用する。）

第3章 その他

第1節 その他項目

・本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項または、その内容に疑義が生じた場合は、監督員の指示を受けること。

第2節 福山市週休2日適用工事について

本工事は、持続可能な建設産業に向けた労働環境の改善を目的とする週休2日適用工事の対象工事です。詳細については、別紙（土木関連工事における福山市週休2日適用工事の実施について）によるものとします。

土木関連工事における福山市週休2日適用工事の実施について

- 1 福山市週休2日適用工事の実施に係る用語の定義は次の各号に定めるものとする。
 - (1) 「週休2日」とは、次のアからウまでに定める区分に応じ、各条件を満たすものをいう。
 - ア 「完全週休2日(土日)」とは、対象期間の全ての週(原則として、土曜日から金曜日までの7日間とする。以下同じ。)毎に現場閉所又は現場休息(以下「現場閉所等」という。)を原則として土曜日及び日曜日に指定し、1週間に2日以上現場閉所等を行うものをいう。
 - イ 「月単位の週休2日」とは、対象期間内の全ての月毎に現場閉所等の日数が、4週8休(現場閉所等の割合が28.5%(8日/28日)以上のものをいう。以下同じ。)以上であるものをいう。
 - ウ 「通期の週休2日」とは、対象期間内において現場閉所等の日数が4週8休以上のものをいう。
 - (2) 「現場閉所」とは、巡回パトロール、保守点検等の現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場及び現場事務所が閉所された状態をいう。
 - (3) 「現場休息」とは、分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場作業が無い状態をいう。
 - (4) 「対象期間」とは、工事着手日(準備期間(契約上の工事の始期から現場事務所などの設置、測量、本体工事又は仮設工事のいずれか最も早い日までの期間をいう。)を除く。)から工事の完成日(後片付け期間(契約図書に基づく工事目的物の施工が全て完了し、余剰資材等の撤去、現場の清掃等、工事の完成検査を受けるために必要な作業を行う期間をいう。)を除く。)までの期間をいう。ただし、次の期間は対象期間から除くものとする。
 - ア 年末年始6日間及び夏季休暇3日間
 - イ 工場製作のみが行われている期間
 - ウ 災害時の緊急対応その他受注者の責めによらず、休工又は現場作業を余儀なくされた期間
 - (5) 「発注者指定型」とは、週休2日適用工事として発注者が指定するものをいう。
 - (6) 「受注者希望型」とは、受注者が工事着手前に、発注者に対して週休2日適用工事として取り組む旨を申し出たものをいう。
- 2 週休2日は、次のアからウまでに定める区分に応じ、各号に定めるところにより実施するものとする。
 - ア 完全週休2日(土日)
 - 1 (1)アに定めるところにより実施するものとする。ただし、対象期間内のうち、日数が7日に満たない週においては、当該週の土曜日及び日曜日の合計日数以上の現場閉所等を行うことで実施できるものとする。
 - イ 月単位の週休2日
 - 1 (1)イに定めるところにより実施するものとする。ただし、暦上の土曜日及び日曜日の現場閉所等では4週8休に満たない月又は日数が28日に満たない月においては、当該

月の対象期間内の土曜日及び日曜日の合計日数以上の現場閉所等を行うことにより実施できるものとする。

ウ 通期の週休2日

1 (1)ウに定めるところにより実施するものとする。

- 3 受注者は、受注した工事が発注者指定型の場合は、工事着手までに監督員に対し、実施する週休2日の区分について申し出るとともに、現場閉所（現場休息）計画表兼実績表（様式1）（以下「計画表」という。）を提出するものとする。
- 4 受注者は、受注した工事が受注者希望型の場合は、工事着手までに監督員に対し、週休2日実施の有無及び実施する週休2日の区分について申し出るとともに、実施する場合は計画表を提出するものとする。なお、工事着手前に週休2日を実施しない旨を申し出た場合は、工事着手後の週休2日を実施する旨の申出は受け付けないものとする。
- 5 受注者は、天候を理由として現場閉所等を行う場合のほか、次に掲げる場合は、監督員との協議により工事着手後であっても週休日を変更することができるものとする。
 - (1) 品質管理、安全管理等のため作業を継続して行う必要がある場合
 - (2) その他工程の都合上やむを得ない場合
- 6 受注者は、当該工事が週休2日適用工事である旨を標示板の見えやすい位置に記載して工事現場に設置しなければならない。この場合において、記載内容は、別記様式に定めるものを基本とするものとする。
- 7 受注者は、計画表に現場閉所等の状況を記入し、現場閉所等の状況が確認できる書類（工事日誌、出勤簿等をいう。）とともに毎月7日（7日が閉庁日の場合は翌開庁日）まで及び工事完成後速やかに、工事打合せ簿により監督員に提出し、確認を受けるものとする。
- 8 週休2日を理由とする工期延長については、認めないものとする。
- 9 受注者は、週休2日を実施できなくなった場合は、速やかにその旨及び理由を工事打合せ簿により監督員に報告するものとする。
- 10 発注者指定型の工事の経費の補正は次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 土木工事

月単位の週休2日の経費を見込んで発注し、現場閉所等の実績に基づき、完全週休2日（土日）を達成したと認めた場合は、完全週休2日（土日）の補正係数を適用して変更契約し、月単位の週休2日を達成できなかった場合は、月単位の週休2日の補正係数を除いて変更契約を行うものとする。

(2) 港湾工事

月単位の週休2日の経費を見込んで発注し、現場閉所等の実績に基づき、月単位の週休2日を達成できなかった場合は、月単位の週休2日の補正係数を除いて変更契約を行うものとする。

- 11 受注者希望型の工事の経費の補正は次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 土木工事

週休2日の経費は見込まず発注し、現場閉所等の実績に基づき、達成した週休2日の区分に応じて完全週休2日（土日）（港湾工事を除く。）又は月単位の週休2日の補正係数を適用して変更契約を行うものとする。

(2) 港湾工事

週休2日の経費は見込まず発注し、現場閉所等の実績に基づき、月単位の週休2日を達成したと認めるとき、当該週休2日の補正係数を適用して変更契約を行うものとする。

12 土木工事（港湾工事を含む。）に係る経費の補正については、次の各号に掲げる現場閉所等の実績に基づき、当該各号に定める補正係数、別表土木工事市場単価の補正係数（港湾工事を除く。）及び土木工事標準単価の補正係数の表に定める補正係数を用いるものとする。ただし、港湾工事（港湾土木請負工事積算基準を適用した工事）については、月単位の週休2日を達成した場合に限り、第2号に定める補正係数及び別表港湾工事市場単価の補正係数の表に定める補正係数により、経費の補正を行うものとする。

(1) 完全週休2日（土日）

ア 労務費	1.02
イ 共通仮設費	1.02
ウ 現場管理費	1.03

(2) 月単位の週休2日

ア 労務費	1.02
イ 共通仮設費	1.01（港湾工事を除く。）
ウ 共通仮設費	1.02（港湾工事に限る。）
エ 現場管理費	1.02（港湾工事を除く。）
オ 現場管理費	1.03（港湾工事に限る。）

13 12(1)ア及び12(2)アに規定する労務費に係る補正対象は、公共工事設計労務単価、電気通信技術者、電気通信技術員、機械設備据付工及び港湾請負工事積算基準に係る標準賃金（船舶製作工を除く。）とする。

14 土木工事については、完全週休2日（土日）又は月単位の週休2日を達成したとき、港湾工事については、月単位の週休2日を達成したときに工事成績評定表の「工程管理」及び「創意工夫」において評価するものとする。

15 週休2日を達成できなかった場合であっても、工事成績評定は減点しない。

16 計画表その他の提出資料に虚偽の記載等を行った場合は、指名除外措置の対象となる場合がある。

別表

土木工事市場単価の補正係数（港湾工事を除く。）

名称	区分	補正係数	
		月単位 の週休２日	完全 週休２日 (土日)
鉄筋工		1.02	1.02
ガス圧接工		1.01	1.01
インターロッキングブロック工	設置	1.01	1.01
	撤去	1.02	1.02
防護柵設置工（ガードレール）	設置	1.00	1.00
	撤去	1.02	1.02
防護柵設置工（ガードパイプ）	設置	1.00	1.00
	撤去	1.02	1.02
防護柵設置工（横断・転落防止柵）	設置	1.02	1.02
	撤去	1.02	1.02
防護柵設置工（落石防護柵）		1.01	1.01
防護柵設置工（落石防止網）		1.01	1.01
道路標識設置工	設置	1.00	1.00
	撤去・移設	1.01	1.01
道路付属物設置工	設置	1.01	1.01
	撤去	1.02	1.02
法面工		1.01	1.01
吹付砕工		1.01	1.01
鉄筋挿入工（ロックボルト工）		1.01	1.01
道路植栽工		1.02	1.02
公園植栽工		1.02	1.02
橋梁用伸縮継手装置設置工		1.01	1.01
橋梁用埋設型伸縮継手装置設置工		1.02	1.02
橋面防水工		1.01	1.01
薄層カラー舗装工		1.00	1.00
グルーピング工		1.00	1.00
軟弱地盤処理工		1.01	1.01
コンクリート表面処理工 （ウォータージェット工）		1.01	1.01
硬質塩化ビニル管設置工		1.01	1.01
リブ付硬質塩化ビニル管設置工		1.01	1.01
砂基礎工	人力施工	1.02	1.02
	機械施工	1.02	1.02
碎石基礎工	人力施工	1.02	1.02
	機械施工	1.02	1.02
組立マンホール設置工		1.01	1.01
小型マンホール工		1.00	1.00
取付管及びます設置工	ます設置工	1.00	1.00
	取付管布設及び支管取付工	1.01	1.01

港湾工事市場単価の補正係数

名称	補正係数
	月単位 の週休2日
底面工	1.01
マット工（アスファルトマット設置・ゴム系マット設置）	1.00
支保工	1.02
足場工	1.01
鉄筋工	1.02
吊鉄筋工	1.02
型枠工	1.02
コンクリート打設工（ポンプ車打設）	1.02
コンクリート打設工（ポンプ車打設以外）	1.02
止水板工	1.02
上蓋工	1.02
伸縮目地工	1.01
係船柱取付	1.02
防舷材取付	1.02
車止・縁金物取付	1.02
係船柱撤去	1.02
防舷材撤去	1.02
車止撤去	1.02
電気防食取付	1.02
防砂目地板取付工（陸上施工）	1.02
防砂目地板取付工（水中施工）	1.02
吸出し防止工（陸上施工・海上施工）	1.02
港湾構造物塗装工（係船柱・車止・縁金物）	1.01
ペトロラタム被覆	1.02
現場鋼材溶接・切断工（陸上施工・海上施工）	1.02
現場鋼材溶接・切断工（水中施工）	1.02
かき落とし工	1.02
汚濁防止膜設置・撤去・移設	1.01
汚濁防止枠設置・撤去	1.01
灯浮標設置・撤去	1.01
汚濁防止膜保守管理（海上目視点検作業船あり・水中目視点検）	1.00
汚濁防止膜保守管理（海上目視点検作業船なし）	1.02
異形ブロック製作型枠工	1.02
異形ブロック製作コンクリート打設工	1.02
異形ブロック製作給熱養生	1.01

土木工事標準単価の補正係数

名称	区分	補正係数	
		月単位 の週休２日	完全 週休２日 (土日)
区画線工		1.02	1.02
高視認性区画線工		1.02	1.02
橋梁塗装工		1.01	1.01
構造物とりこわし工	機械	1.01	1.01
	人力	1.02	1.02
コンクリートブロック積工		1.02	1.02
排水構造物工		1.02	1.02

(1)

ご協力をお願いします	
週休2日適用工事	
〇〇〇〇〇を なおしています	
〇〇年〇〇月まで	
時間帯〇:〇〇~〇:〇〇	
〇〇〇〇工事	
発注者	福山市 〇〇〇〇課
	電話 000-000-0000
施工者	〇〇〇〇建設株式会社
	電話 000-000-0000

(2)

週休2日適用工事
この工事は、建設産業の労働環境を改善するため、週休2日の確保に取り組む工事です。
発注者：福山市〇〇〇〇〇〇課
受注者：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
(A3サイズ以上)

総括情報表

頁0 -0001

変更回数 適用単価地区 単価適用日	0 70 福山市 00-07.07.01(0)		凡例 Co …コンクリート As …アスファルト DT …ダンプトラック BH …バックハウ CC …クローラクレーン TC …トラッククレーン RTC…ラフテレーンクレーン
諸経費体系	1 公共(一般)		
	当世代	前世代	
工種 施工地域・工事場所区分 復興補正区分 週休補正区分 現場事務所等の貸与区分 I C T補正区分 冬期補正係数 緊急工事区分 前払金支出割合区分 契約保証区分	04 道路改良工事 03 一般交通影響有り(1) 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 通常工事 0 % 00 補正無し 01 金銭的保証(0.04%)		
建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として，労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。			

本工事費 内訳表

頁0 -0002

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X1000
道路修繕					Y1G02 レベル1
構造物補修工	1	式			Y1G0227 レベル2
ひび割れ補修工	1	式			Y1G022701 レベル3
充てん工法 【1構造物当り補修延べ延長,材料種類】	1	式			Y1G02270101 レベル4
ひび割れ補修工(充てん工法) 補修延べ延長20m未満の場合		構造物			S1020031 00
	1	構造物			単第0 -0001 表
低圧注工法 【1構造物当り補修延べ延長,材料種類】		構造物			Y1G02270102 レベル4
ひび割れ補修工(低圧注工法) 補修延べ延長25m未満の場合		構造物			S1020035 00
	1	構造物			単第0 -0002 表
断面修復工					Y1G022702 レベル3
	1	式			

本工事費 内訳表

頁0 -0003

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
左官工法 【1構造物当り修復延べ体積,材料種類】 【鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無】		構造物			Y1G02270201レベル4
断面修復工(左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む) 修復延べ体積3m3	1	構造物			V10200412 00 単第0 -0003 表
断面修復材					V0001 00
	1	式			単第0 -0004 表
表面含浸工					Y1G022702 レベル3
	1	式			
表面含浸工 【1構造物当り修復延べ体積,材料種類】 【鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無】		構造物			Y1G02270201レベル4
表面含浸工(下地処理) 高所作業者無、時間的制約無、昼間施工					F0000000007 00
	115	m2			
表面含浸工(含浸材塗布) 高所作業者無、時間的制約無、昼間施工					F0000000008 00
	115	m2			
表面含浸材 ケイ酸リチウム系含浸材シラン混合型					F0000000006 00
	20.5	kg			
鉄筋工 SD345_D16～D25 一般構造物 [規]10t未満					SS000099 00
	0.06	t			単第0 -0005 表

本工事費 内訳表

頁0 -0004

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
足掛金物取付工					S6578 00
	2	本			単第0 -0006 表
足掛金物 W=150、φ19					F0000000014 00
	2	個			
目地補修工					Y1G022702 レベル3
	1	式			
目地充填工 【1構造物当り修復延べ体積,材料種類】 【鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無】		構造物			Y1G02270201 レベル4
目地充填工 目地形状20mm×20mm×12.2m					V0002 00
	1	構造物			単第0 -0007 表
目地充填材料					V0003 00
	1	式			単第0 -0008 表
構造物撤去工					Y1G0228 レベル2
	1	式			
運搬処理工					Y1G022816 レベル3
	1	式			
殻運搬 【殻種別】		m3			Y1G02281601 レベル4

本工事費 内訳表

頁0 -0005

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
積込(コンクリート殻)					SPK24040117 00
	3	m3			単第0 -0009 表
殻運搬 Co(無筋)構造物とりこわし DID区間有り 運搬距離14.4km以下(10.9km超)					SPK24040151 00
	3	m3			単第0 -0010 表
殻処分 【殻種別】		m3			Y1G02281602レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
コンクリート殻(無筋)					F0000000005 00
	7	t			
仮設工					Y1G0230 レベル2
	1	式			
土留・仮締切工					Y1G023004 レベル3
	1	式			
土のう					Y1G02300419レベル4
		袋			
土のう拵え, 積立, 撤去工 小口並べ					S1012 00
	1	m2			単第0 -0011 表

本工事費 内訳表

頁0 -0006

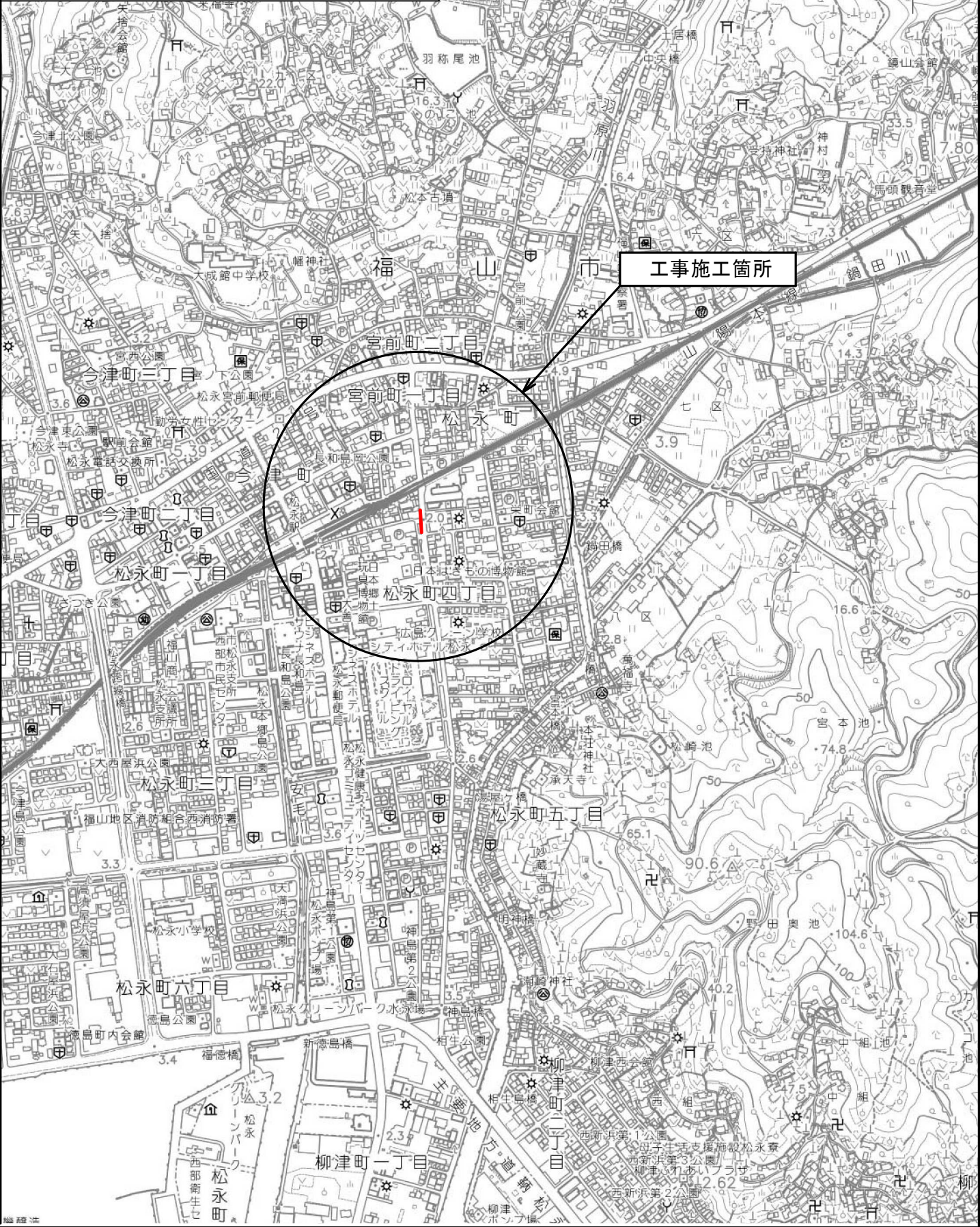
費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
ポンプ運転工					SG1D0042001 00
	49	日			単第0 -0012 表
交通管理工					Y1G023021 レベル3
	1	式			
交通誘導警備員					Y1G02302101レベル4
		人			
交通誘導警備員B					R0369 00
	98	人			
* * 直接工事費 * *					
#0020計=支給品等(材料),無償貸付					
共通仮設費率分					Z0019
計算情報..... 対象額..... 率.....					
* * 共通仮設費計 * *					
* * 純工事費 * *					

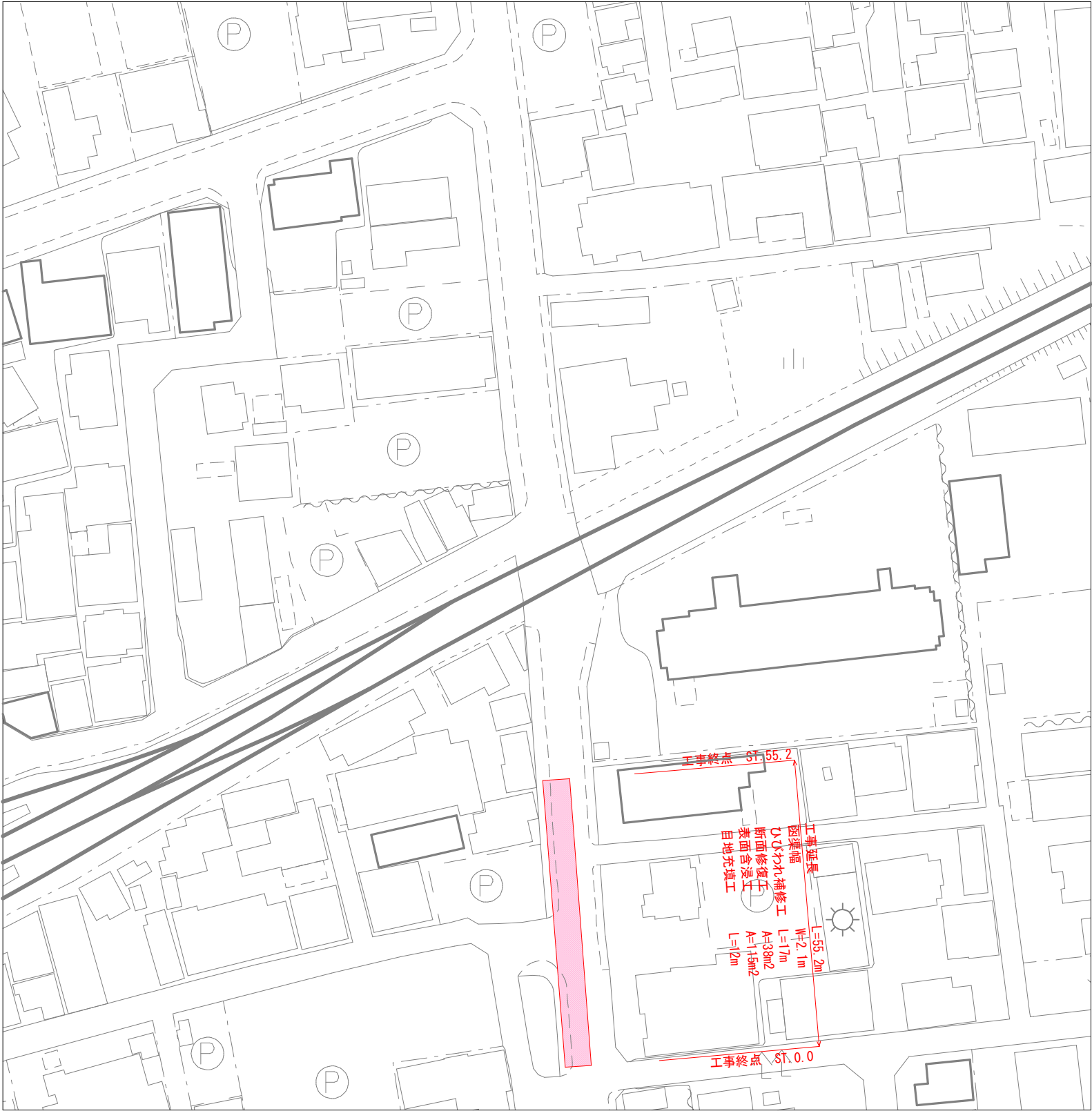
本工事費 内訳表

頁0 -0007

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
現場管理費 計算情報..... 対象額..... 率.....					
* * 工事原価 * *					
一般管理费率分 計算情報..... 対象額..... 率.....					前払補正率...
契約保証費 計算情報..... 対象額..... 率.....					当初請対額 当初対象額
一般管理費計					
* * 工事価格 * *					
* * 消費税相当額 * * 計算情報..... 対象額..... 率.....					
* * 工事費計 * *					
* * 契約保証費計 * *					

図面番号	1 / 8	縮	尺	S=1:10,000
工種	道路函渠補修工事			
種別	位置図			番号
路線名	宮前柳津幹線・7－1			
工事箇所	福山市 松永町四丁目 地内			
福 山 市				



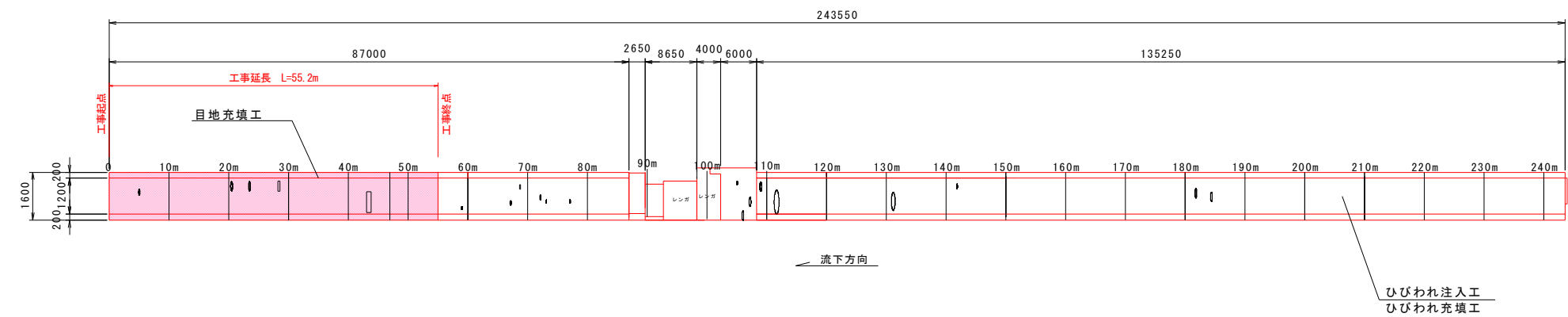


※A1の図面をA3に縮小しています。

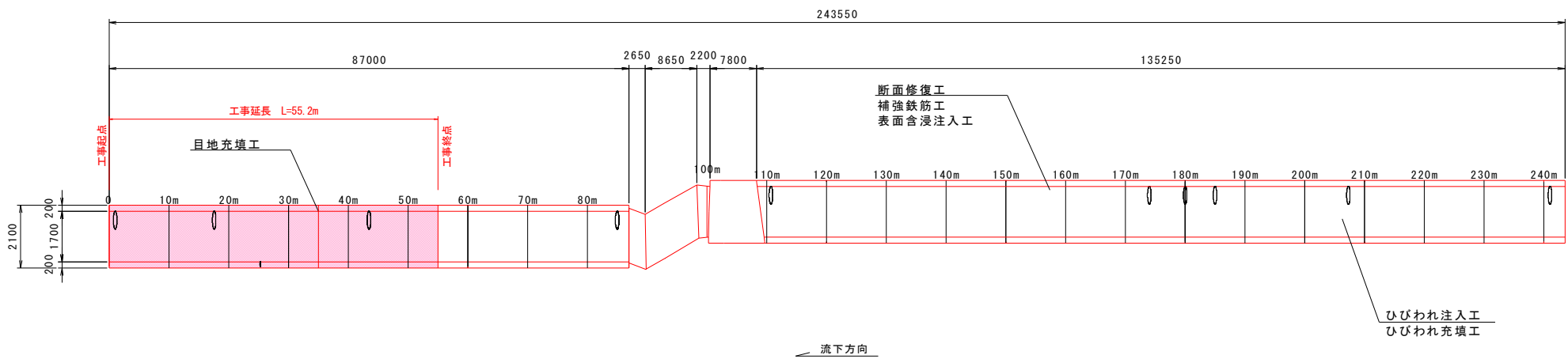
工事名	道路両渠補修工事 (宮前柳津幹線・7-1)		
図面名	平面図		
作成年月日	2025年7月		
縮 尺	1/500	図面番号	2/8
工事箇所	福山市 松永町四丁目 地内		
事業者名	福山市 松永建設産業課		

補修一般図 S=1:100

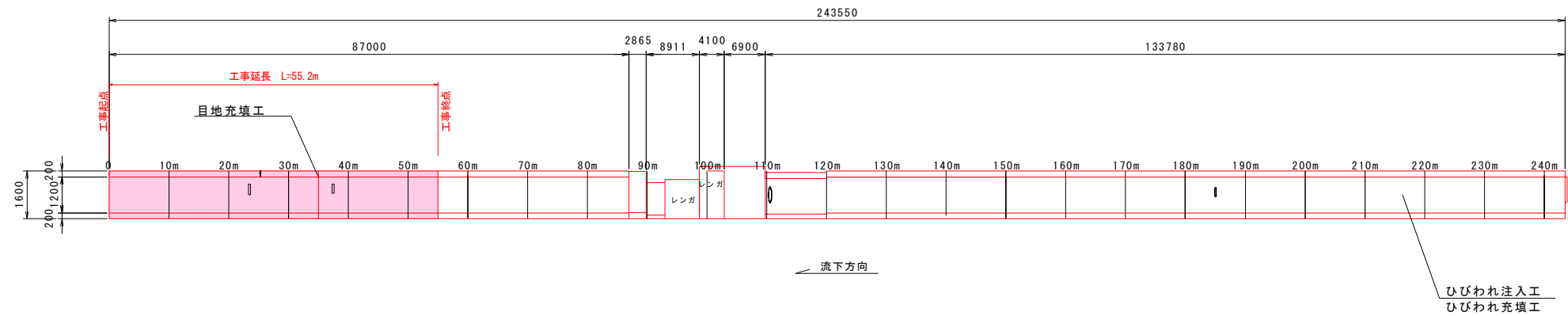
側面図
(右側壁)



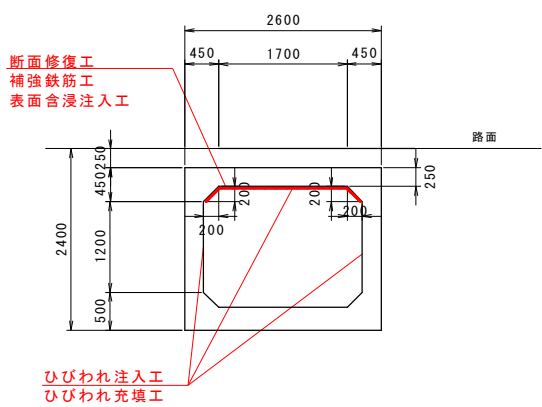
平面図
(頂版)



側面図
(左側壁)



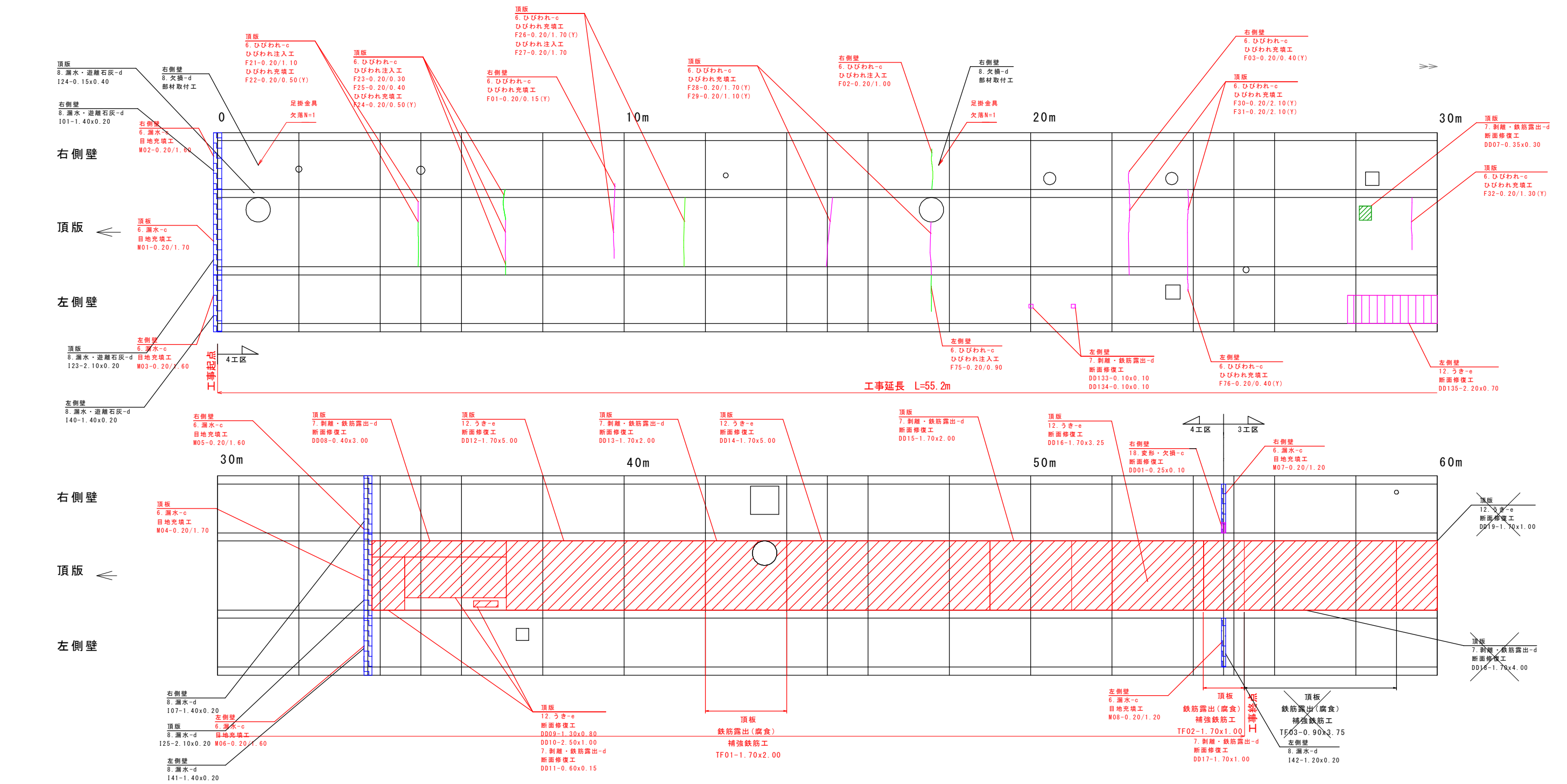
断面図 S=1:50



※A1の図面をA3に縮小しています。

工事名	道路函渠補修工事 (宮前柳津幹線・7-1)		
図面名	補修一般図		
作成年月日	2025年7月		
縮尺	図示	図面番号	3/8
工事箇所	福山市 松永町四丁目 地内		
事業者名	福山市 松永建設産業課		

補修図（その1） S=1/50



ひびわれ充填工 数量表	
4工区 0m~60m	
番号	ひびわれ延長(m)
10≦w or 遊離石灰を伴うひびわれ	
F01	0.15
F03	0.40
F22	0.50
F24	0.50
F26	1.70
F28	1.70
F29	1.10
F30	2.10
F31	2.10
F32	1.30
F76	0.40
計	11.95

ひびわれ注入工 数量表	
4工区 0m~60m	
番号	ひびわれ延長(m)
0.2≦w<0.5mm	
F02	1.00
F21	1.10
F23	0.30
F25	0.40
F27	1.70
F75	0.90
計	5.40

断面修復数量表 左官工法(頂版) 4工区					
		断面修復工(㎡×m)			
調査箇所	区間	番号	H	W	面積
頂版	0m~60m	DD07	0.35	0.30	0.11
		DD08	0.40	3.00	1.20
		DD09	1.30	0.80	1.04
		DD10	2.50	1.00	2.50
		DD11	0.60	0.15	0.09
		DD12	1.70	5.00	8.50
		DD13	1.70	2.00	3.40
		DD14	1.70	5.00	8.50
		DD15	1.70	2.00	3.40
		DD16	1.70	3.25	5.53
		DD17	1.70	1.00	1.70
小計					35.97
合計 = 35.97+1.56+0.03 =					37.56 m2

断面修復数量表 左官工法(側壁) 4工区					
調査箇所	区間	番号	断面修復工(×××)		
			H	W	面積
左側壁	0m~60m	DD133	0.10	0.10	0.01
		DD134	0.10	0.10	0.01
		DD135	2.20	0.70	1.54
小計					1.56

断面修復数量表 左官工法(頂版) 3工区					
頂版	0m~60m				
		DD14	1.70	4.00	6.80
		DD19	1.70	1.00	1.70
3工区小計					8.50

断面修復数量表 左官工法(側壁) 4工区					
右側壁	0m~60m	DD01	0.25	0.10	0.03
	小計				0.03

目地充填工 数量表	
4工区 0m~60m	
番号	目地延長(m)
0.2m	
M01	1.70
M02	1.60
M03	1.60
M04	1.70
M05	1.60
M06	1.60
M07	1.20
M08	1.20
合計	12.20

補強鉄筋工数量表(頂版) 4工区					
調査箇所	区間	番号	補強鉄筋工 (m × m)		
			H	W	面積
頂版	0m~60m	TF01	1.70	2.00	3.40
		TF02	1.70	1.00	1.70
4 工 区					5.10

補強鉄筋工数量表(頂版) 3工区					
頂版	0m~60m				
		TF03	0.90	3.75	3.38
3工区小計					3.38

足掛金物工 N= 1+1 = 2個

凡 例	
補修工法	
	ひびわれ注入工 (0.2mm ≦ W < 1.0mm)
	ひびわれ充填工 (1.0mm ≦ W)
	断面修復工(吹付工法: 頂版)
	断面修復工(左官工法: 頂版)
	断面修復工(左官工法: 側壁)
主軸 6. ひびわれ-d ひびわれ注入工 F1-0.00/0.00	部材名 損傷種類 補修工法 番号-補修寸法

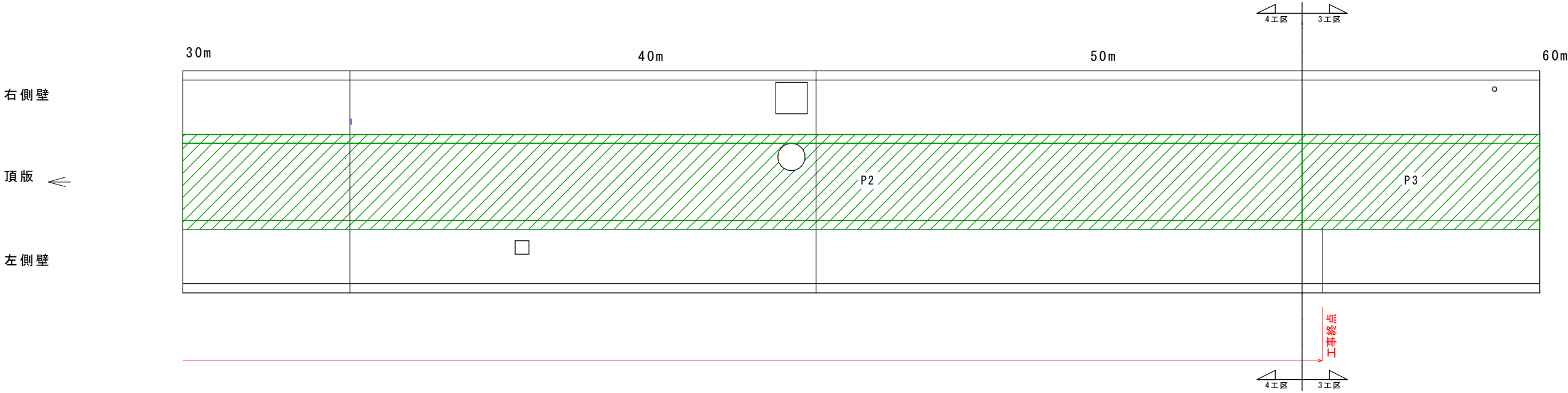
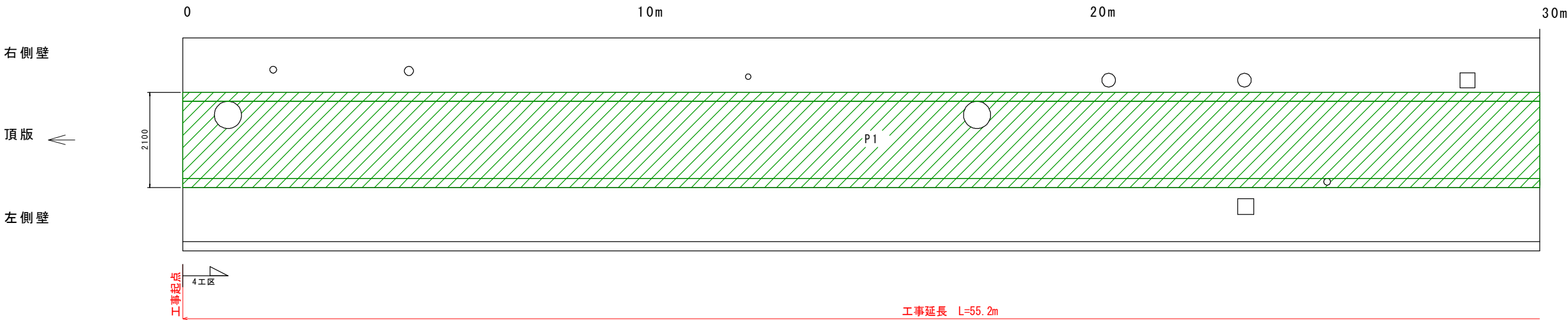
※ 本図面は、現地での簡易な計測に基づき、作成したものである。
※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。

0m~60m ※A1の図面をA3に縮小しています。	
工事名	道路関係補修工事 (宮前柳津幹線・7-1)
図面名	補修図 (その1)
作成年月日	2025年7月
縮 尺	図 示 図面番号 4/8
工事箇所	福山市 松永町四丁目 地内
事業者名	福山市 松永建設産業課

補修図（その2）

S=1/50

＜表面含浸工＞



表面被覆工数量表（頂版）			0m-60m
番号	形状・寸法・面積	標準面積 (㎡)	
P1	2.10x30.0-0.28x2 -0.18x1	62.26	
P2	2.10x25.20-0.28x1	52.64	
合計		114.90	
P3	2.10x4.80	10.08	
3工区小計		10.08	
補修図小計		125.16	
合計		505.18	

凡 例	
補修工法	
P	表面処理工
P0	補修工法 補修番号

※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。
※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。
※ 表面処理工は高分子系表面被覆材とする。
※ コンクリート表面の高圧洗浄・ケレンは十分に行うこと。
※ 気温0℃以下では施工しないこと。
※ 施工時は上流側に土留めを置き、作業スペースの足元を確保して水をポンプで作業スペース外へ送り出し作業をすること。
※ 施工時は送風機をマンホールに置き空気を循環させて作業を行うこと。

※ 本図面は、現地での簡易な計測に基づき、作成したものである。
※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。

0m-60m ※A1の図面をA3に縮小しています。

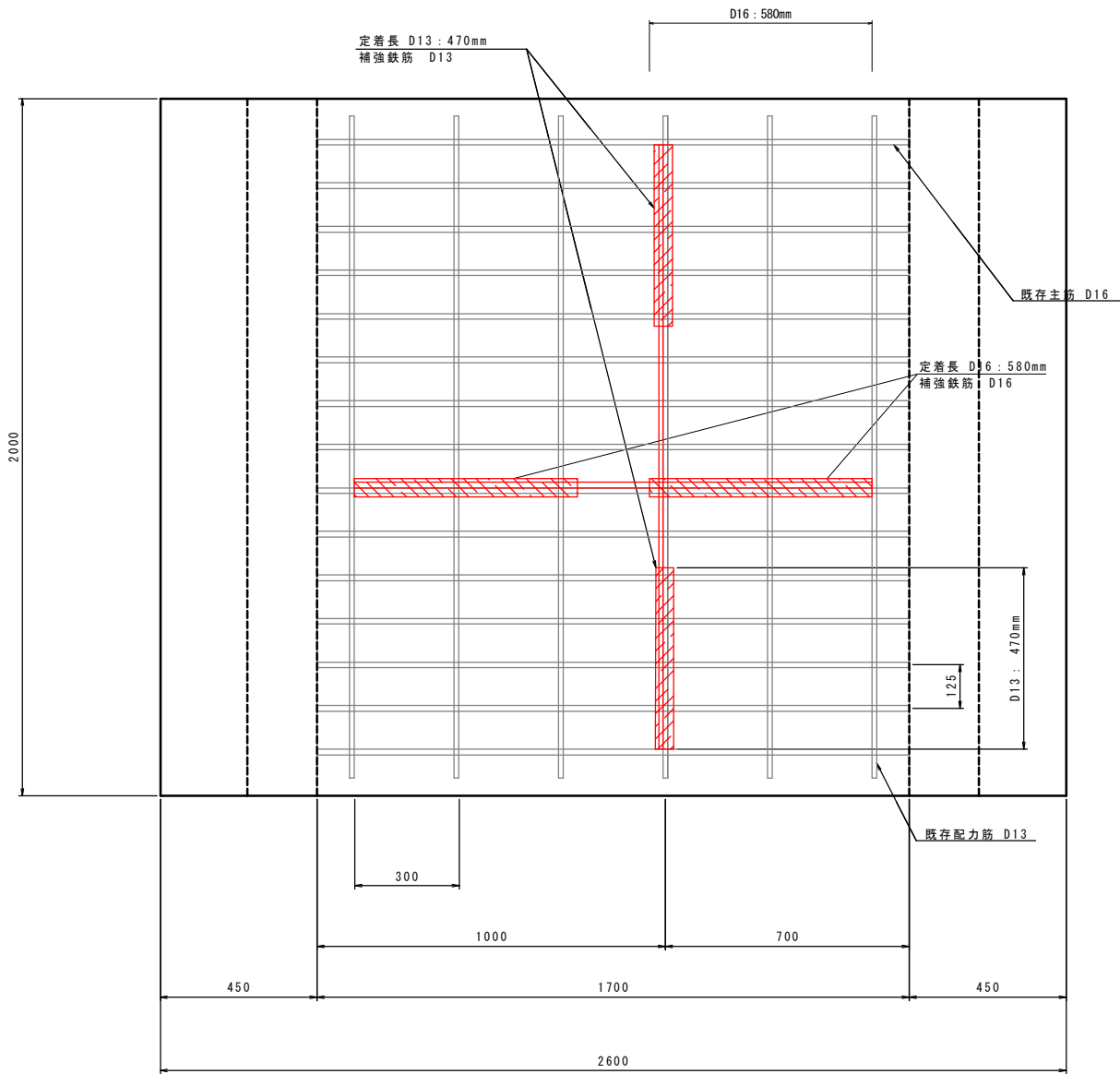
工事名	道路面被覆補修工事 (宮前柳津幹線・7-1)		
図面名	補修図(その2)		
作成年月日	2025年7月		
縮 尺	図 示	図面番号	5/8
工事箇所	福山市 松永町四丁目 地内		
事業者名	福山市 松永建設産業課		

頂版補強鉄筋補修図

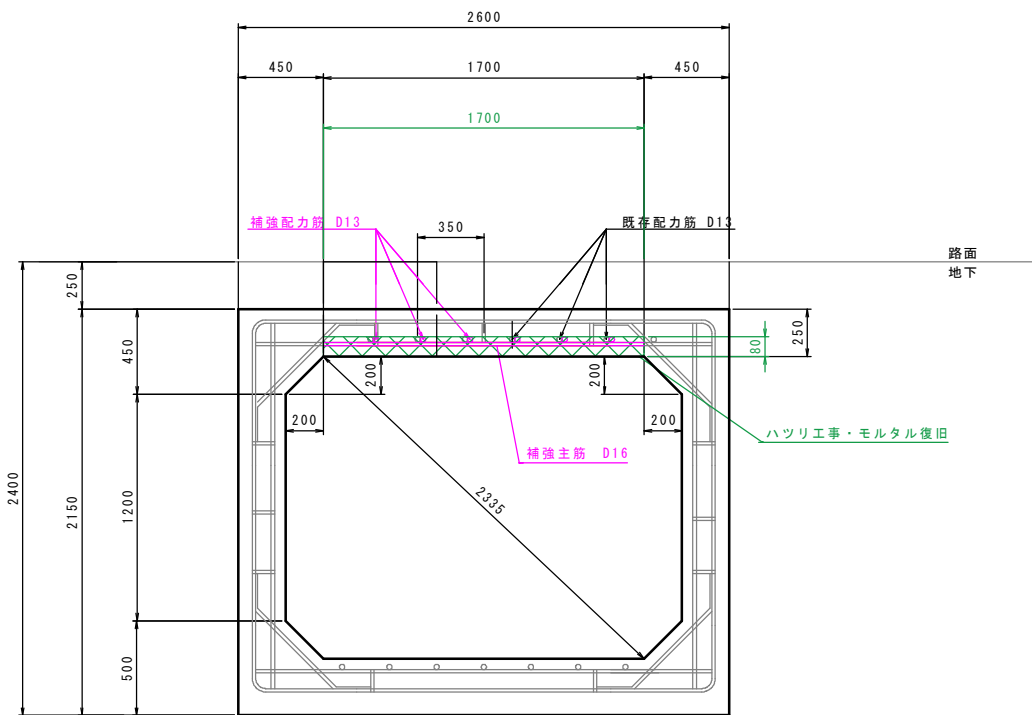
S=1:20

頂版補強配筋図 参考図 S=1:10

平面図



断面図 S=1:20



- 事前に現場を確認し、鉄筋の状況を確認すること。
- 鉄筋の補強場所、数量の確認を行い、補強数量や補強場所が増減する場合は事前に発注者と協議を行うこと。
- 鉄筋の減肉または膨張しているものは差筋(活え筋)をして、補強鉄筋を入れること。
- 鉄筋をケレンして断面積がないものは補強鉄筋を入れること。
- 補強する場合は定着長をとること。
- 函渠の流量が決まっているため、函渠の断面積の減少になる補強鉄筋はしないこと。
- うき部分の鉄筋の腐食については、補強が必要な場合は発注者と協議をすること。
- ハンチ部は現状維持の状態で、ハツリ等が必要な場合は事前に発注者と協議をすること。

【参考】

※補強鉄筋の定着長が確保できない場合は、以下のいずれかの対応が推奨される。

- 鉄筋アンカー(D16以上)を用いて補強を行う
- フックを設けて、定着長を確保する(半月型フックの場合、定着長の2/3)
- 既設主鉄筋よりも大きな径の鉄筋で補強を行う(応力計算が必要)
- 頂版上部の主鉄筋までハツリ、補強を鉄筋をいれる。ただし、施工中の部材厚減少に伴う対策を講じること(※仮設支保工等による施工中の補強など)
- 現状から、版または片持ち梁として主鉄筋補強が必要な場合は、欠損部相当の鉄筋量を開口部補強鉄筋とする
- いずれも、現況のコンクリート量に対する鉄筋量を配筋すること

※定着長の算定(参考)

公益社団法人 日本道路協会 道路橋示方書・同解説 IIIコンクリート橋・コンクリート部材編 平成29年11月p84 式(5.2.1)より
$$l_a = \sqrt{\frac{\sigma_{sa}}{4 \times \tau_{0a}}} \times \phi$$
$$= \sqrt{\frac{200}{4 \times 1.40}} \times 16 = 571.4 \approx 580\text{mm}$$

σ_{sa} : 鉄筋の引張応力度の基本値: SD345より 200N/mm²
 τ_{0a} : コンクリートの付着応力度の基本値: コンクリート設計基準強度 21 より 1.40(N/mm²)
 ϕ : 鉄筋径: D16

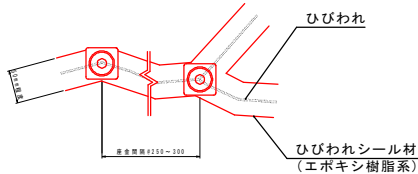
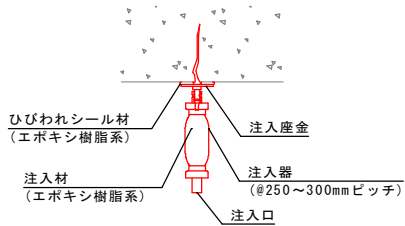
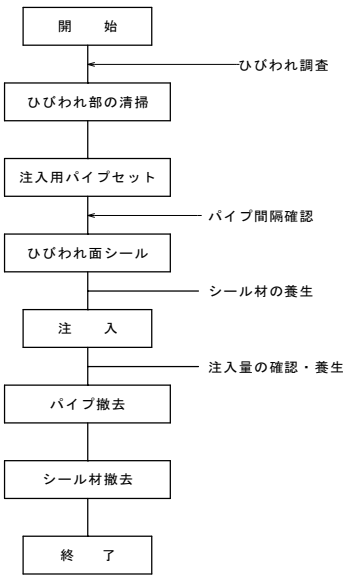
※A1の図面をA3に縮小しています。

工事名	道路函渠補修工事 (宮前柳津幹線・7-1)		
図面名	頂版補強鉄筋補修図		
作成年月日	2025年7月		
縮尺	図示	図面番号	6/8
工事箇所	福山市 松永町四丁目 地内		
事業者名	福山市 松永建設産業課		

補修工法詳細図（その1）

ひびわれ注入工

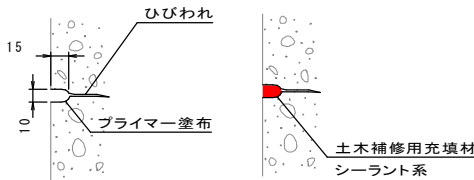
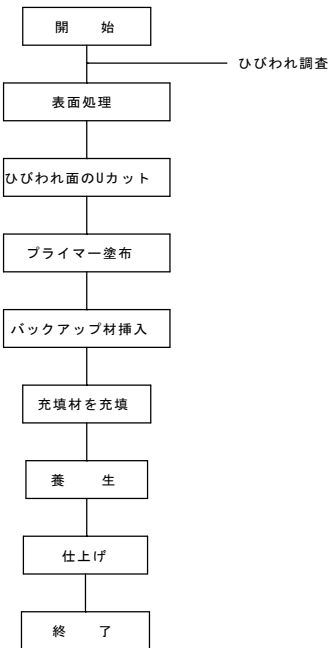
（低圧注入工法：エポキシ樹脂系）



- シール厚さは約2mm程度とすること。
- 0.2mm以上のひびわれに対して行なうこと。
- 注入材はエポキシ樹脂注入材3種を使用すること。

ひびわれ充填工

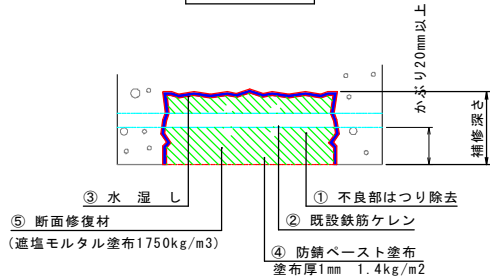
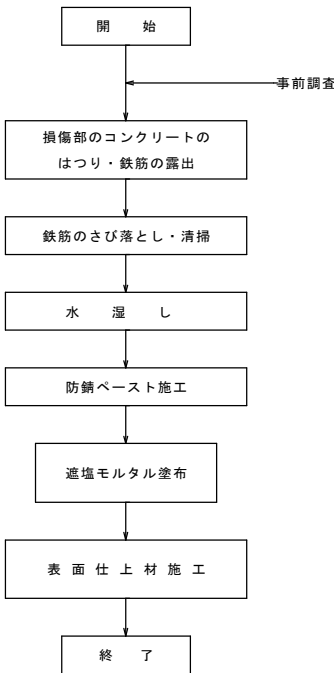
（シーラント系）



- 充填対象となるひびわれは、ひびわれ幅1.0mm以上のものとする。
- カッターを入れた際に、漏水が生じた場合は、止水材にて止水後土木補修用充填材シーラント系で充填すること。

断面修復工

（SSI工法）



- 鉄筋は背面まではつりだすこと。
 - 鉄筋処理と清掃後、水湿しを行い、防錆ベストを均一に施工すること。
 - 腐食鉄筋の鉄筋断面が著しく減少した箇所は、新たに同径の鉄筋を追加設置すること。
 - 鉄筋を追加する場合は、所定の重ね継手長を確保すること。
 - 下地処理が不十分な箇所においては、塗布厚2mmを目標とすること。
- ※1. 施工時の気温は5℃～35℃の範囲とすること。
- ※2. やむをえず気温4℃以下で施工する場合、下記事項に留意すること。
- 施工時の気温が0℃以下では施工しない。
 - 練り混ぜ水に、10℃～35℃程度の温水を使用し、練上がり温度を5℃～20℃に調整する。
 - 外気温や施工範囲を考慮し、施工箇所を5℃以上に保温する。
 - 酷暑時の施工における練上がり温度は、35℃以下（吹き付け施工・グラウト施工の場合は 30℃以下）となるように、練り混ぜ水に冷水を用いるなどして調整する。

※ 本図面は、現地での簡易な計測に基づき、作成したものである。

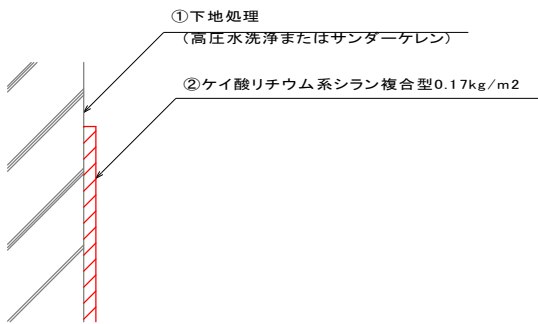
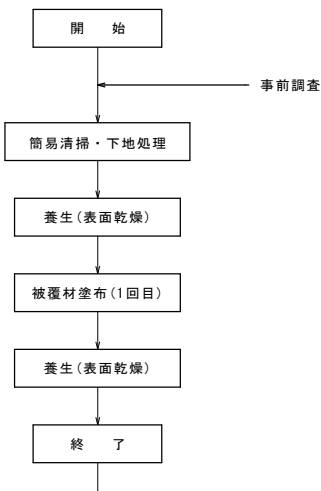
※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。

工事名	道路函渠補修工事 (宮前柳津幹線・7-1)		
図面名	補修工法詳細図（その1）		
作成年月日	2025年7月		
縮 尺	図 示	図面番号	7/8
工事箇所	福山市 松永町四丁目 地内		
事業者名	福山市 松永建設産業課		

補修工法詳細図（その2）

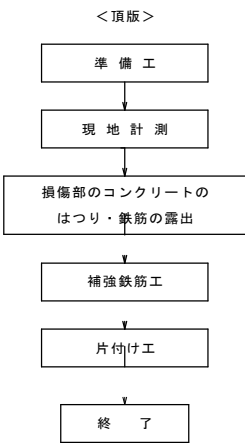
表面処理工

（表面被覆工）



1. 表面処理工は高分子系浸透性防水材を用いること。
2. 下地の表面は乾燥していると視認できる状況のもと塗布すること。
3. 下地処理は基本的に散水や高圧洗浄処理で洗い流す程度であり、著しい凹凸や付着物等の含浸性を阻害する要因となるものについてはプラスト処理やケレンによって除去・清掃すること。
4. 塗布量はコンクリートの状態で調整し、ダレが生じないように数回に分けて塗布すること。
5. 塗布方法はローラー・刷毛を用いて均一に塗布すること。

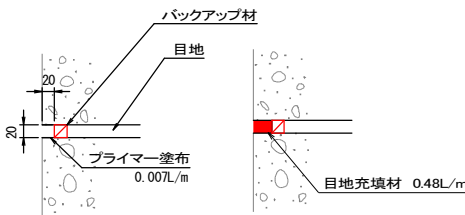
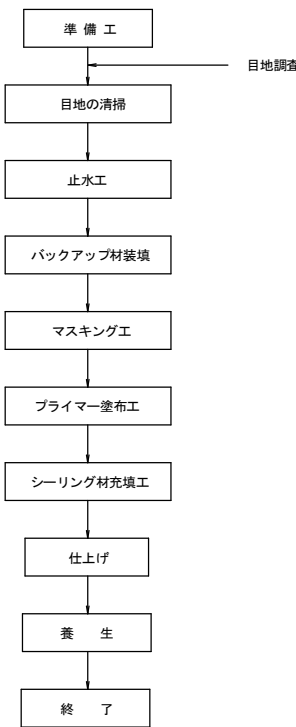
補強鉄筋工



1. 現地計測をして鉄筋の腐食の状態や膨張、減肉、補強数量を確認すること。
2. 鉄筋の破断、減肉、膨張が著しいものは補強鉄筋を入れること。
3. ケレン後の鉄筋の断面積が著しい減少のものは、補強鉄筋を入れること。
4. 補強鉄筋の数量や場所が合わない場合は、発注者と協議を行うこと。
5. 主筋方向の補強を目的としているため、配力筋の補強が必要な場合は発注者と協議を行うこと。

目地充填工

（ポリウレタン系）



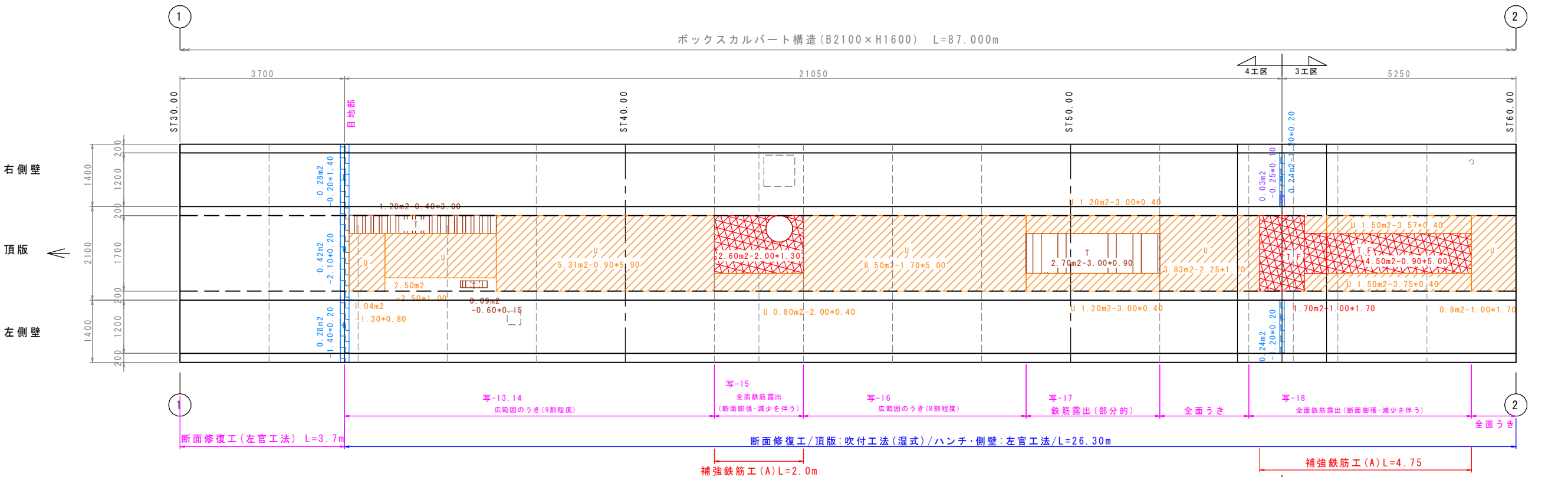
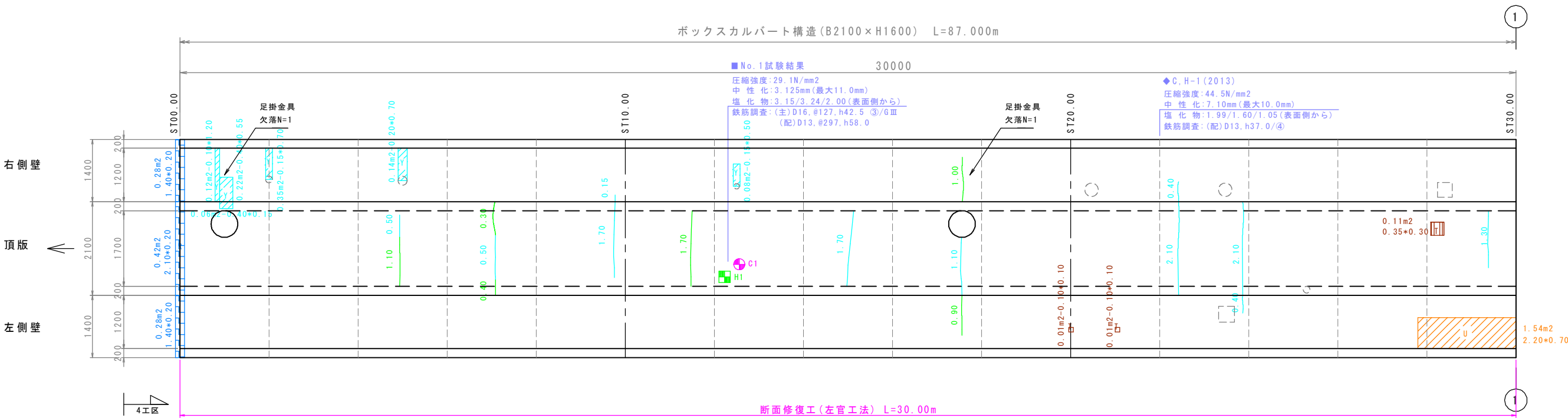
1. カッターを入れた際に、漏水が生じた場合は、止水材にて止水後土木補修用充填材ポリマーセメント系で充填すること。

※ 本図面は、現地での簡易な計測に基づき、作成したものである。
※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。

工事名	道路函渠補修工事 (宮前柳津幹線・7-1)		
図面名	補修工法詳細図(その2)		
作成年月日	2025年7月		
縮 尺	図 示	図面番号	8/8
工事箇所	福山市 松永町四丁目 地内		
事業者名	福山市 松永建設産業課		

函渠工損傷図補完図

S=1:50



凡 例

ひびわれ (0.2mm未満) 図中の数値は長さ (m) を示す。	0.60	コンクリートの浮き、剥離 図中の数値は幅×高さ (m) を示す。	0.08m2-0.40×0.20	漏水 図中の数値は幅×高さ (m) を示す。	0.08m2-0.40×0.20
ひびわれ (0.2~1.0mm) 図中の数値は長さ (m) を示す。	0.60	剥落・鉄筋露出① 図中の数値は幅×高さ (m) を示す。	0.08m2-0.40×0.20	は つ り	
ひびわれ (1.0~2.0mm) 図中の数値は長さ (m) を示す。	0.60	剥落・鉄筋露出② (鉄筋腐食) 図中の数値は幅×高さ (m) を示す。	0.08m2-0.40×0.20	コア採取位置	
ひびわれ (2.0~5.0mm) 図中の数値は長さ (m) を示す。	0.60	変形・欠損 図中の数値は幅×高さ (m) を示す。	0.08m2-0.40×0.20	反発硬度試験 SH	
ひびわれ (5.0mm以上) 図中の数値は長さ (m) を示す。	0.60	豆板 図中の数値は幅×高さ (m) を示す。	0.08m2-0.40×0.20		
ひびわれ (遊離石灰) 図中の数値は長さ (m) を示す。	0.60	遊離石灰 図中の数値は幅×高さ (m) を示す。	0.08m2-0.40×0.20		

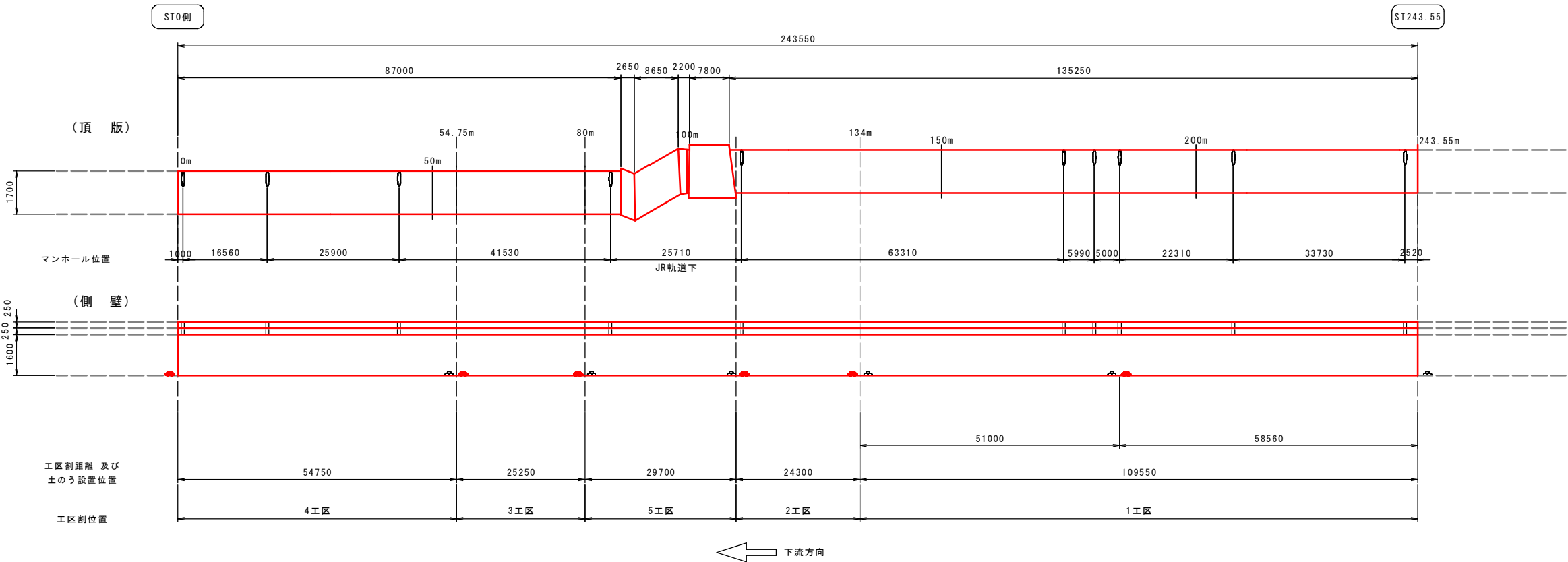
ST 0.00m~ST 60.00			
工事名	道路函渠補修工事 (宮前柳津幹線・7-1)		
図面名	管渠損傷図補完図 (参考図)		
作成年月日	2025年7月		
縮 尺	図 示	図面番号	
工事箇所	福山市 松永町四丁目 地内		
事業者名	福山市 松永建設産業課		

仮設計画図（参考図）

S=1:100

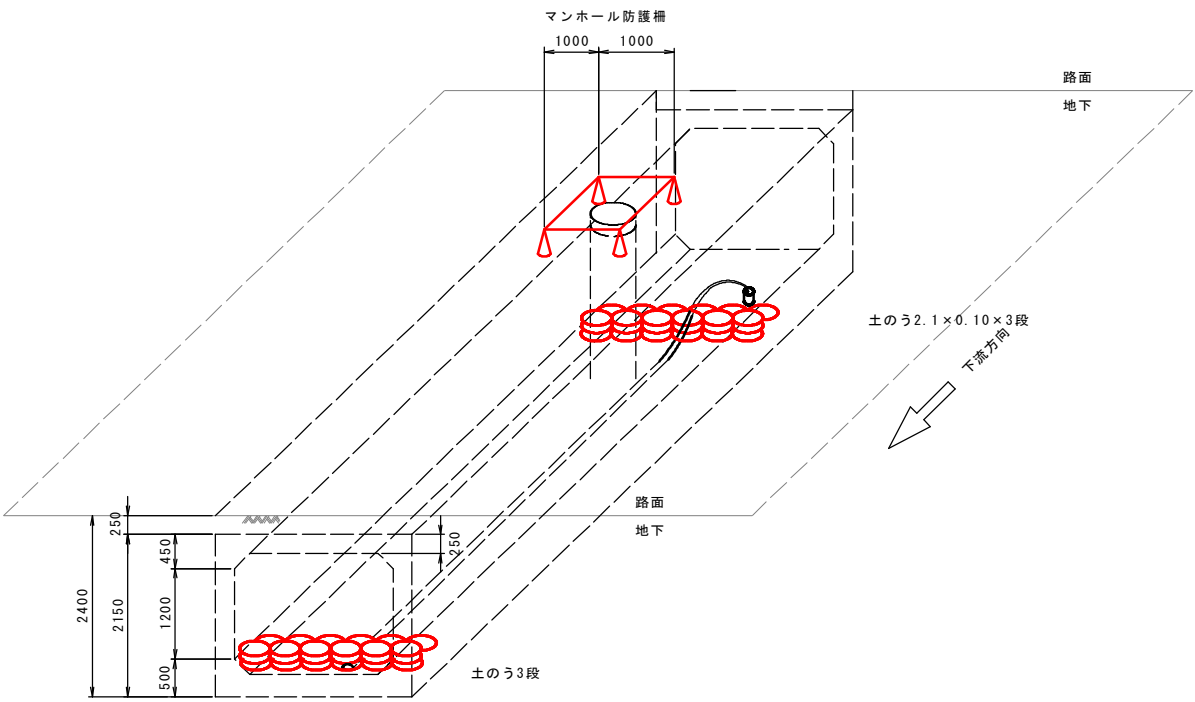
工区割図

V=1:100
H=1:500



土のう・ポンプ設置図

S=1:50



1. 工事前には地元の住民と協議し工事を周知すること。
2. 事前に現場状況と交通状況等を確認すること。
3. JR起動下の工事は関係機関と事前に打合せをして、許可を得て作業すること。
4. バス停があるため、バス会社等の関係機関との事前に打合せをすること。
5. 土のうは2段としているが、状況に応じて段数を変え、作業に影響のないようにすること。
6. 土のうの数やポンプの台数に変更がある場合は事前に発注者と協議をすること。
7. マンホールの蓋を開けるときは第三者が立ち入らないように囲いをする。
8. 送風機設置のみのマンホールは第三者が立ち入らないように囲いをして最小限のスペースで設置すること。
9. 土のうは原則として上流と下流に1ヶ所ずつ設置することを想定しているが、状況に応じて箇所数を増やすこと。
10. 土のうやポンプを増設する場合は事前に発注者と協議を行うこと。
11. 気象状況を確認し、豪雨等の悪天候・天災時には作業を中止し、函渠から退避すること。
12. 増水が予想される場合は土のうを撤去し、水路を開放すること。
13. 発電機やポンプからの漏電・感電に注意する作業計画をたてること。
14. ポンプ用の発電機は原則としてマンホール内に設置し、路上に設置する必要がある場合は別途協議すること。
15. 水量が多い場合は設置図のように作業スペース前に土のう設置箇所を2箇所を増やし、水量を減少させてポンプで排水すること。

工事名	道路函渠補修工事 (宮前柳津幹線・7-1)		
図面名	仮設計画図1(参考図)		
作成年月日	2025年7月		
縮尺	図示	図面番号	
工事箇所	福山市 松永町四丁目 地内		
事業者名	福山市 松永建設産業課		

参 考 图 书

施工単価表

頁0 -0002

ひび割れ補修工(低圧注入工法)
補修延べ延長25m未満の場合

S1020035

単第0 -0002 表

1 構造物 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.500	人			
特殊作業員	2.400	人			
普通作業員	1.800	人			
ひび割れ注入材 エポキシ樹脂系	0.200	kg			
ひび割れ注入材 エポキシ樹脂系パテシール材	1.781	kg			
ひび割れ注入材 低圧注入器具 シリンダーセット	22.000	個			
諸雑費	6	%			#09
*** 単位当たり ***	1	構造物			
A=3 【F】注入材(kg) C=1 【F】シール材(kg) E=2 【F】低圧注入器具(個)			B=0.2 注入材の必要数量(kg/構造物) D=1.3 シール材の設計数量(kg/構造物) F=22 低圧注入器具の必要数量(個/構造物)		

施工単価表

頁0 -0003

断面修復工(左官工法)
(鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む)

V10200412

單第0 -0003 表

構造物 当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0004

断面修復材

V0001

單第0 -0004 表

式 当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0005

鉄筋工

SS000099

單第0 -0005 表

SD345 D16 ~ D25

一般構造物 [規]10t未滿

1 t 当り

[illegible]

施工単価表

足掛金物取付工

S6578

單第0 -0006 表

頁0 -0006

本 当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0007

目地充填工

V0002

單第0 -0007 表

構造物 当り

目地形状20mm×20mm×12.2m

[illegible]

施工単価表

頁0 -0008

目地充填材料

V0003

單第0 -0008 表

式 当り

[illegible]

施工単価表

積込(コンクリート殻)

SPK24040117

単第0 -0009 表

機械構成比: 9.77% 労務構成比: 86.03% 材料構成比: 4.20% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 1,233.90000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ(クローラ型) 標準型・排2014 山積0.8/平積0.6m3	9.77%		バックホウ(クローラ型) 標準型・排2014 山積0.8/平積0.6m3)		MTPC00153 MTPT00153
普通作業員	77.50%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
運転手(特殊)	8.53%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	4.20%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 -(全ての費用)					

施工単価表

頁0 -0010

殻運搬
Co(無筋)構造物とりこわし
機械構成比: 41.69% 労務構成比: 43.88% 材料構成比: 14.43% 市場単価構成比: 0.00%

SPK24040151
DID区間有り 運搬距離14.4km以下(10.9km超)

単第0 -0010 表
1
標準単価: 2,348.60000

m3 当り

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	41.69%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
運転手(一般)	43.88%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	14.43%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 Co(無筋)構造物とりこわし C=2 DID区間有り E=1 -(全ての費用)			B=1 機械積込 D=50 運搬距離14.4km以下(10.9km超)		

施工単価表

頁0 -0011

土のう拵え，積立，撤去工
小口並べ

S1012

単第0 -0011 表

10
m2 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土砂	3.400	m3			
土のう 幅48cm×長62cm,2号,ポリエチレン製	170.000	枚			化学繊維袋
普通作業員	7.140	人			
諸雑費	1	式			
*** 合計 ***	10	m2			
*** 単位当たり ***	1	m2			
A=1 小口並べ C=10 土砂【登録単価CODE】(m3)			B=1 土のう拵え，積立，撤去		

施工単価表

ポンプ運転工

SG1D0042001

単第0 -0012 表

1 日 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
特殊作業員	0.11	人			
普通作業員	0.05	人			
工事用水中ポンプ損料	1	日			単第0-0013 表
発動発電機 ガソリンエンジン駆動 定格容量3kVA	1	日			
諸雑費	18	%			#09
*** 単位当たり ***	1	日			
A=1 作業時排水 C=1 ポンプ1台			B=2 発動発電機 D=6 普通型(潜水ポンプ) 口径80mm全揚程10m		

施工単価表

頁0 -0013

工事用水中ポンプ損料

SGAD0042001

單第0 -0013 表

1 日 当り

[illegible]

数量総括表

レベル1 工事区分	レベル2 工 種	レベル3 種 別	レ ベ ル 4 細 別	レ ベ ル 5 規 格	単 位	数 量	計上数量	備 考
	構造物補修工	ひびわれ補修工	ひびわれ注入工 (低圧注入工法)	エポキシ樹脂系3種	構造物	1.0	1	L=5.4m
			ひびわれ注入材	エポキシ樹脂系3種	kg	0.2	0.2	
			シール材	エポキシ樹脂系	kg	1.3	1.3	
			注入器	低圧注入器	個	22	22	設置間隔： 250mm間隔
			ひびわれ充填工法	シーラント系	構造物	1.0	1	L=11.95m
			充填材	シーラント系	kg	2.3	2.3	
		断面修復工	断面修復工 左官工法	プライマー工、 仕上げ工を含む	構造物	1.0	1	V=3.0m ³
			遮塩モルタル		kg	6203.3	6203.3	ロス含む
			防錆ペースト		kg	73.2	73.2	ロス含む
			殻運搬	コンクリート殻 人力積込	m ³	3.0	3	
			殻処分	無筋コンクリート 殻 がれき類	m ³	3.0	3	
					t	7.1	7	
	道路維持修繕工	函渠補修工	鉄筋工	鉄筋加工・組立	t	0.064	0.06	
			表面処理工	サンダーケレン	m ²	114.9	115	
		表面被覆工	被覆材塗布工	浸透性防水材	m ²	114.9	115	
			被覆材	浸透性防水材	kg	20.5	20.5	
		目地補修工	目地充填工		構造物	1.0	1	L=12.2m
			プライマー		L	0.09	0.09	ロス含む
			シーリング材		L	5.9	5.9	ロス含む
	仮設工	付属物工	部材取付工	足掛金具	個	2	2	
		交通整理工	交通誘導警備員B	供用日数:N=3	人	98	98	
			土のう工	土のう 拵え・設置・撤去	m ²	1.3	1	
			水替工	ポンプ運転	日	49.0	49	

ひびわれ補修工

種別 部材	エポキシ樹脂 注入材3種		
4工区	5.40 m	— m	— m
合 計	#REF! ##	— m	— m

ひびわれ注入工（低圧注入工法）

(1) ひびわれ延長

1) エポキシ樹脂注入材3種

・ $0.2 \leq w < 0.5$

$L = \begin{matrix} 4工区 \\ 5.40 \end{matrix} = 5.40 \text{ m}$

・ $0.5 \leq w < 1.0$

$L = 0.00$
 $\Sigma L = \frac{0.00 \text{ m}}{5.40 \text{ m}}$

(2) シール材（エポキシ樹脂系）

$w = 50 \text{ mm}$ （仮定）
 $t = 3 \text{ mm}$ （仮定）
 $\gamma = 1.60$ （仮定）

$w1 = 5.40 \times 0.050 \times 0.003 \times 1600 = 1.30 \text{ kg}$
 $\Sigma W = 1.30 \text{ kg}$

(3) 注入材

1) エポキシ樹脂注入材3種

・ $0.2 \leq w < 0.5$

$$\begin{aligned} w &= 0.35 \text{ mm} \quad (0.2 \sim 0.5 \text{ mmの平均を仮定}) \\ t &= 70 \text{ mm} \quad (\text{仮定}) \quad \text{※ひびわれ幅} \times 200 \text{ (コンクリートメンテナンス協会より)} \\ \gamma &= 1.10 \quad (\text{仮定}) \end{aligned}$$

$$w1 = 5.40 \times 0.00035 \times 0.070 \times 1100 = 0.15 \text{ kg}$$

・ $0.5 \leq w < 1.0$

$$\begin{aligned} w &= 0.75 \text{ mm} \quad (0.5 \sim 1.0 \text{ mmの平均を仮定}) \\ t &= 150 \text{ mm} \quad (\text{仮定}) \quad \text{※ひびわれ幅} \times 200 \text{ (コンクリートメンテナンス協会より)} \\ \gamma &= 1.10 \quad (\text{仮定}) \end{aligned}$$

$$w1 = 0.00 \times 0.00075 \times 0.150 \times 1100 = 0.00 \text{ kg}$$

$$\Sigma W = 0.15 \text{ kg}$$

(4) 注入器 (低圧注入器)

・ 設置間隔 : 250mm間隔

$$N = 5.40 / 0.25 = 22 \text{ 個}$$

ひびわれ充填工

(1) ひびわれ延長

$$\begin{aligned} & \cdot 1.0 \leq w & 4 \text{工区} \\ L & = & 11.95 \end{aligned}$$

$$= 11.95 \text{ m}$$

(2) 充填材

1) シーラント系 ※単位重量は参考である

$$\begin{aligned} w & = & 10 \text{ mm (仮定)} \\ t & = & 15 \text{ mm (仮定)} \\ \gamma & = & 1.26 \quad (\text{仮定}) \end{aligned}$$

$$w1 = 11.95 \times 0.010 \times 0.015 \times 1260 = 2.26 \text{ kg}$$

$$\Sigma W = 2.26 \text{ kg}$$

ひびわれ延長数量計算書

番号	部 位	ひびわれ延長 (m)				備 考
		$w < 0.2\text{mm}$	$0.2 \leq w < 0.5\text{mm}$	$0.5 \leq w < 1.0\text{mm}$	$1.0 \leq w \leq 5.0\text{mm}$	
	4工区	H1	H2	H3	H4	
F01	右側壁				0.15	遊離石灰を伴うひびわれ
F03	右側壁				0.40	遊離石灰を伴うひびわれ
F22	頂板				0.50	遊離石灰を伴うひびわれ
F24	頂板				0.50	遊離石灰を伴うひびわれ
F26	頂板				1.70	遊離石灰を伴うひびわれ
F28	頂板				1.70	遊離石灰を伴うひびわれ
F29	頂板				1.10	遊離石灰を伴うひびわれ
F30	頂板				2.10	遊離石灰を伴うひびわれ
F31	頂板				2.10	遊離石灰を伴うひびわれ
F32	頂板				1.30	遊離石灰を伴うひびわれ
F76	左側壁				0.40	遊離石灰を伴うひびわれ
F02	右側壁		1.00			
F21	頂板		1.10			
F23	頂板		0.30			
F25	頂板		0.40			
F27	頂板		1.70			
F75	左側壁		0.90			
	合計	0.00	5.40	0.00	11.95	

断面修復工(左官工)

- ・ 頂版かぶり厚 :
- ・ 頂版鉄筋径 :
- ・ 頂版はつり深 :
$$\begin{array}{rcl} & 50 & + \quad 16 \quad + \quad 10 \\ & = \quad 76 & \div \quad 80 \quad \text{mm} \end{array}$$
- ・ 翼壁のはつり深さは頂版と同様80mmとするものとする。
- ・ 起点側側壁かぶり厚 :
- ・ 起点側側壁鉄筋径 :
- ・ 起点側側壁はつり深 :
$$\begin{array}{rcl} & 50 & + \quad 16 \quad + \quad 10 \\ & = \quad 76 & \div \quad 80 \quad \text{mm} \end{array}$$
- ・ 終点側側壁かぶり厚 :
- ・ 終点側側壁鉄筋径 :
- ・ 終点側側壁はつり深 :
$$\begin{array}{rcl} & 50 & + \quad 16 \quad + \quad 10 \\ & = \quad 76 & \div \quad 80 \quad \text{mm} \end{array}$$

はつり工

$$V = 3.004 = 3.004 \text{ m}^3$$

断面修復工 左官工法 (プライマー工、仕上げ工を含む)

$$V = 3.004 = 3.004 \text{ m}^3$$

材料

遮塩モルタル			(ロス率18%)	
$W = 1750\text{kg/m}^3$	$\times$	3.004	$\text{m}^3 \times 1.180$	$= 6203.3 \text{ kg}$
防錆ペースト			(ロス率18%)	
$W = 1.4\text{kg/m}^2$	$\times$	44.34	$\text{m}^2 \times 1.180$	$= 73.2 \text{ kg}$

殻運搬

$$V = 3.004 = 3.004 \text{ m}^3$$

殻処分 (無筋コンクリート殻)

$$V = 3.004 = 3.004 \text{ m}^3$$

$$W = 3.004 \times 2.35\text{t/m}^3 = 7.059 \text{ t}$$

断面修復工(左官工) 数量計算書

番号	部 位	形 状 ・ 寸 法 (m × m)	補修面積 (m2)	補修深さ (m)	塗布面積 (m2)	補修体積 (m3)	備 考
	4工区						
DD133	左側壁	0.10 × 0.10	0.01	0.080	0.04	0.001	
DD134	左側壁	0.10 × 0.10	0.01	0.080	0.04	0.001	
DD135	左側壁	2.20 × 0.70	1.54	0.080	2.00	0.123	
DD07	頂板	0.35 × 0.30	0.11	0.080	0.21	0.009	
DD08	頂板	0.40 × 3.00	1.20	0.080	1.74	0.096	
DD09	頂板	1.30 × 0.80	1.04	0.080	1.38	0.083	
DD10	頂板	2.50 × 1.00	2.50	0.080	3.06	0.200	
DD11	頂板	0.60 × 0.15	0.09	0.080	0.21	0.007	
DD12	頂板	1.70 × 5.00	8.50	0.080	9.57	0.680	
DD13	頂板	1.70 × 2.00	3.40	0.080	3.99	0.272	
DD14	頂板	1.70 × 5.00	8.50	0.080	9.57	0.680	
DD15	頂板	1.70 × 2.00	3.40	0.080	3.99	0.272	
DD16	頂板	1.70 × 3.25	5.53	0.080	6.32	0.442	
DD17	頂板	1.70 × 1.00	1.70	0.080	2.13	0.136	
D001	右側壁	0.25 × 0.10	0.03	0.080	0.09	0.002	
	合計		37.56		44.34	3.004	

頂板補強工

鉄筋工 鉄筋工（補強鉄筋工）

(1) 鉄筋 D16

※延長(L)は、6-5-2. 鉄筋数量計算書 より

・ D16の単位重量 1.56

$$L = 40.80 \text{ m} \times 1.56 \text{ kg} = 63.65 \text{ kg}$$

$$63.65 \div 1000 = 0.064 \text{ t}$$

鉄筋数量計算書

番号	部 位	鉄筋延長 (m) SD345 D16						
		鉄筋の長さ (m)	延長距離 (m)	必要本数 (本) @125	鉄筋長さ合計 (m)	単位重量 (kg/m)	鉄筋重量 (kg)	鉄筋重量 (t)
	4工区							
TF01	ST42	1.7	2.00	16	27.2			
TF02	ST54	1.7	1.00	8	13.6			
	合計				40.80	1.56	63.65	0.064

表面処理工

表面被覆工（浸透性防水材）

$$A = 114.90 = 114.90 \text{ m}^2$$

(1) 下地処理工（サンダーケレン）

$$A = 114.90 = 114.90 \text{ m}^2$$

(2) 被覆材塗布工

$$A = 114.90 = 114.90 \text{ m}^2$$

(3) 被覆材塗布

$$w1 = 114.90 \times 0.17 = 19.53 \text{ kg}$$

(標準使用量)

$$w2 = 19.53 \times 0.05 = 0.98 \text{ kg}$$

ロス率：5%

$$\Sigma W = 20.51 \text{ kg}$$

目地補修工

目地充填工

(1)	目地充填工				
	4工区				
11	=	12.200		=	12.200 m
(2)	目地充填				
	4工区				
プライマー	=	12.200	×	0.007	(ロス率含む) = 0.09 L
シーリング	=	12.200	×	0.48	(ロス率含む) = 5.86 L

目地数量計算書

番号	部 位	目地延長 (m) 0.2m
	4工区	
M01		1.70
M02		1.60
M03		1.60
M04		1.70
M05		1.60
M06		1.60
M07		1.20
M08		1.20
	合計	12.20

土のうエ

土のう (48 cm × 62 cm)

(1) 拵え・設置・撤去

$$V = 2.10 \times 0.10 \times 3.00 \text{ 段} \times 2 \text{ 箇所} = 1.26 \text{ m}^2$$